

祭事暦

2月1日・20日 午前8時30分
 月次祭
 2月3日 午前11時・午後2時
 節分祭
 2月11日 午前10時
 紀元祭
 2月17日 午前10時
 祈年祭(田打舞神事)



発行所
 寒川神社社務所

〒253-0195
 神奈川県
 高座郡寒川町宮山3916
 電話 代表0467(75)0004

編集者 水谷智賢
 責任者
 印刷所 樹さんこうどう



昭和天皇御製

「松上雪」

ふりつもる

み雪にたへて

いろかへぬ

松ぞををしき

人もかくあれ

鎮守の森

今年一年間の無事を祈願しようと、本年も多くの方々が初詣に訪れ、御社頭は大変賑わった。近隣にお住まいの方、遠方よりお越しの方、家族でお越しの方、友人・知人とお越しの方など、様々な方にお参りをいただいた。ご神前での参りの姿も様々である。仲間と賑やかに参りされる方、参拝の作法を一つ一つ確認するかのよう丁寧に参りされる方、子供に参拝の作法を教えながら参りされる家族など。参拝を済ませた後には皆晴れやかな表情をされていた。また個人で静かにお参りをされる方もおられる。他の参拝者に配慮してか参拝所の端により、静かに胸の前で手を合わせ、頭を少し下げ目を瞑り、必死にお祈りをされていた。時々頭を深く下げて祈られるお姿は、あたかも寒川大明神様と会話をされているかのように思われ、その清らかで正直なお姿から、他人がその尊厳を冒してはならない厳格な祈りの空間を強く感じたことを思い出す。この祈りの空間は家庭でも同様。各家庭にある神棚の前で心を落ち着かせ、家族のことや友人・知人など周りの方々を思いやる為の、祈る時間を設けることが出来る。忙しい毎日を送りながらも自分の気持ちや落ち着かせ、神棚の前で手を合わせ、祈りの時間を大切にし、その祈りの中から湧き出る感謝の気持ちを忘れずに日々の生活を送りたいものである。

(浩)



遷宮で結ぶ人の輪心の輪
 第六十二回神宮式年遷宮

平成二十二年庚寅年
初詣
神徳



新玉の年の初めには、日頃より寒川大明神の広大無辺なる八方除の御神徳を敬仰される方々が、全国各地より大勢ご参拝されました。
神門には色鮮やかに彩られた新春恒例の迎春干支ねぶた『開運虎視躬行』が飾られ、千葉作龍先生渾身の作品にて訪れた参拝者を勇猛な気でお迎えいたしました。

八方除祭
元旦祈禱祭

一日
午前零時、御本殿の太鼓が境内に鳴り響き新年の幕開けを告げると、八方除

の更なる御神威の発揚を祈る「八方除祭」が行なわれ、続いて「元旦祈禱祭」が執行され、午前六時には「歳旦祭」が厳肅に斎行されました。

恭敬

二日 追儺祭

午後八時、境内の明かりをすべて消した暗闇の中で邪気災厄を払い除く「追儺祭」が執行されました。
祭典終了後には、御神前に備えられた小さな弓矢が魔除けのお守として、ご参集の皆様にご配られました。



三日 元始祭

年の初めに当り、皇位の大本と由来を祝した祭典が宮中において行なわれました。当神社に於きましてもこの祭典にあわせて、皇室の元始をしのび、皇室の弥栄と国家国民の繁栄をお祈りいたしました。

八日 武佐弓祭



午前十時御本殿において祭典が行なわれた後、内庭齋場にて神職二名が大的に矢を射る「武佐弓神事」が行なわれ、本年の吉凶が占われました。

神事終了後には、大的の両脇に付された麻が、安産や建築のお守としてご参拝の皆様にご頒けられました。



迎春干支ねぶた
奉灯協賛者

- 東映無線線(株)
- 東映通信工業(株)
- 中島捷介
- 一政水産(株)
- 横浜貨物総合(株)
- 大塚美容形成外科
- 柴崎徹・柴崎久恵
- 田中功一
- ジュジュ化粧品(株)
- (有)ミツワ企画
- 日本ロードマーク(株)
- 櫛嶋孝司・間野隆司
- 森川榮介
- (有)サダコ美容室
- (株)竹中工務店
- (株)豊栄金属
- 八幡智太郎
- 八幡陽三
- 横溝隆義
- 市川元久
- 大川静男
- 関根晃

(敬称略・順不同)

今月の祭事



節分祭

二月三日(水) 午前十一時
午後二時

一陽来復、本年の邪気を祓う節分祭が午前と午後の二回行なわれます。

当日は年男年女の皆様が祭典に参列され、追儺板を大きく打ち鳴らし、「福は内」、「鬼は外」と声高らかに豆撒きを行ない、邪気を打拂います。

また、境内に設けられた特設舞台から福豆が撒かれ、福物を戴こうと多くの皆様がお出でになります。

紀元祭

二月十一日(木) 午前十時

我が国の建国をしのび、皇室国家の弥栄と国民・氏子崇敬者の安泰を祈る紀元祭が斎行されます。神武天皇が大和橿原宮で第一代の天皇として御即位されたとされる二月十一日に祭典が行なわれます。戦前には「紀元節」とも呼ばれておりました。また当日は、神社功労者の顕彰式が行なわれます。

祈年祭

二月十七日(水) 午前十時

本年の五穀豊穡と産業の振興を祈る祈年祭(別名としごいのまつり)が斎行されます。

この祭典は、秋に行なわれる収穫感謝の祭である新嘗祭と対になる重要な祭典です。

当日は米作りの様子を模し再現した「田打舞神事」が社人と神職により御神前に奉納されます。



祝祭日には国旗を掲げましょう

成人式を迎えて

本年めでたく成人を迎えられました皆様にご心よりお祝い申し上げます。

当社社では五名の職員が成人いたしました。

強い大人になれるよう努めたいと思っております。

巫女 町田れいか

二十年という人生をこのように歩む事が出来ましたのは、様々な出来事や色々な思い出、そして今日まで支えて下さった皆様方のおかげと、深く感謝申し上げます。

これからは、今までの経験を生かし、又社会に貢献できるよう、一所懸命頑張っていきたいと思っております。

巫女 菊池あゆみ

私の二十年間を振り返ってみると、楽しいこともありましたが、辛いこともたくさんありました。

しかし、辛いことを乗り越えるたびに、自分が少しずつ成長していたのだなと実感しています。

これからは、自分から困難に立ち向かっていく



巫女 鈴木 美波

今まで私を育ててくれた両親、そして出会った多くの人に支えられていたのだと、改めて思い感謝しております。

これからも沢山の経験をし気持ちを新たに今後

皆様のお役に立てるよう、日々努力していきたいと思っております。

巫女 東 智香

成人式という一つの節目を迎えることができ、私を育ててくれた両親をはじめ、これまで出会った多くの方々に心より感謝申し上げます。

まだまだ未熟な私ですが、これからも多くのことを学び、そして、学んできたことを活かして日々進歩できるよう、社頭奉仕に励んでまいりたいと思っております。

巫女 野島 千尋

今日成人式を迎え、今までの自分を振り返ると、家族や友人をはじめ大勢の方々を支えられ、今の自分がいるのだと改めて思い、心より感謝申し上げます。

これからは、この感謝の気持ちを忘れず、日々の行動に自覚と責任を持ち、ご奉仕につとめ、すこしづつ恩返しをしたいと思っております。

年末年始 神勤奉仕を終えて

年末年始にかけて大勢の学生の皆さんにご奉仕を頂き、恙無くご参拝の皆様をお迎えすることが出来ました。助勤者より寄せられた感想の一部をご紹介します。

國學院大學 四年

芳賀 悠介



昨年末より約二週間に亘り、寒川神社の御社頭にて御奉仕させて頂きました。

日々、途切れる事無く訪れる多くの方々を拝見し、その多さ熱心さは、私の想像をはるかに超えており、大変驚くと同時にこれこそが、寒川大明神様の御神徳の顕れだ、と感じました。この様な篤い信仰を集める寒川神社で御奉仕出来た事で、今後神職として勤めるにあたり、いかに経験を積むかが、重要である事に気付かされました。ご縁ありまして、今春より奉職させて頂きますが、「ひたすら神明奉仕」の精神を元に、日々

精進する所存であります。

最後になりますが、お忙しい中、何も出来ない私に、親切丁寧に御指導頂いた皆様に、心より御礼申し上げます。

國學院大學 四年

田村 拓之



年末年始という短い期間でしたが、御奉仕をさせて頂きました。

御祈祷の多い神社と聞いていたのですが、想像以上で、多くの方々を列を為し待たれている姿は、圧倒されると同時に、大神様に対する参拝者の深い想いを感じさせられました。そして、その想いに応えようと努力する職員の方の姿が、と



ても印象深く、今春寒川神社の一員となるにあたり、神様に仕える気持ちをより一層強くさせました。

御社頭では、不慣れで、戸惑いも多く、不甲斐無さを痛感しましたが、緊張した中で多くの事を学ぶ事が出来、神職の心構えを、改めて認識致しました。

今後は、崇敬者の皆様に認められる神職を目指し、努力していきたくと思っております。

帝京大学 三年

原 智代



本年は、御祈祷された方々に

御神札をお渡しする御奉仕をさせて頂きました。

日頃、言葉使いに気を配り話す機会はほとんどありませんので、失礼はないかと不安で、緊張しました。

しかし、参拝者の方に温かい言葉を掛けて頂いた事で安心出来、笑顔になりました。

すると、笑顔を返して下さる参拝者が増えた気がしました。笑顔の大切さに気付かせて頂いた事は、今後忘れてはいけない貴重な経験になりました。

この御奉仕で感じた事を生かし、より一層成長できるように努力していきたいと思えます。

最後になりましたが、親切丁寧にご指導下さった職員の皆様温かいお言葉を下さった参拝者の方々に心より御礼申し上げます。

湘南高校 一年

吉田 智美



私は今回 初めて寒川神社に

ご奉仕させて頂きました。配属されたのは授与所で、参拝者の方と直接関わり、金銭を扱う部署でしたので、初めはとても緊張しました。

深夜の寒さも重なり、指や声は震え、不安でいっぱいでしたが、神職さんや巫女さんから丁寧に指導して頂き、助勤者の方と協力し合い、なんとか無事に御奉仕する事が出来ました。

また、「ありがとう」と言ってお守りを受け、笑顔で帰られる参拝者の方に、嬉しい気持ちがおこりました。

ご奉仕させて頂く中で、私は普段の生活では学べない沢山の事を学べたと思います。

大変貴重な体験をさせて頂きました事を深く感謝しております。本当に有難うございました。



連載

遷宮講座



國學院大學
神道文化学部教授
神道学博士

なかにし まさゆき
中西正幸

第十回 御敷地の造営

去る十一月三日、伊勢神宮の入口にあたる宇治橋の渡始式が挙行され、渡女を中心として神職をはじめ、神職や全国から選ばれた三夫婦が晴れやかに渡り納めた。本講座第三回の「伊勢の神橋」でも触れたが、古く中世末にさかのぼる純和橋で、皇太神宮へと参詣者を渡し続けてきた。この遷宮附属式のひとつ「宇治橋渡始式」が終わると、遷宮諸祭は二十四年までしばらくお休みとなる。

遷宮前年にあたる二十四年三月の立柱祭からふたたび遷宮諸祭が挙行される。正殿建築の初めに行なわれ、屋船大神に平安を乞いまつりつつ、御殿の御柱を立て固める祭りである。屋船大神とは建築の神さまで、正殿が揺ぎなく堅固であるように祈り込める。ふるく延暦の儀式帳によれば、鎮地祭と同日に禰宜・大物忌が心御柱を建て、諸役夫が正殿四隅の柱根を突き固めている。したがって本来は心御柱の奉建を意

味した祭名であったが、後代には神職がおこなう心御柱の奉建とは別個に独立して、宮大工が正殿の御柱を打ち固めることに変化したと理解できよう。

現行では、式年造営庁の参事・技監以下が、忌鍛冶・小工をひきいて正宮を拝礼したあと、新宮の御敷地に移る。大少宮司以下の神職が見守るなか、主事以下が祭りをおこなう。次いで小工八人が御前に進んで四組に分かれ、南北中



宇治橋渡始式と渡女 (伊勢市・荒井留五郎氏撮影)



立柱祭

柱・東西中柱・四隅柱の足堅・貫の木口をそれぞれ三度、木槌でドーンドーンと力強く打ち固めるものである。木口を打ち固める鈍音が力づくよく響きわたり、工事の進捗を告げているようである。

次いで同日午後、御形祭が執り行われる。正殿東西の妻にあたる短柱に、円形の御金物を打ちまつる秘儀である。御神体を象る御形という意味で、「御鏡形」とも称する。はやく延暦の儀式帳にみえる古い儀式であり、正殿竣工後に神官が奉仕し、心御柱奉建とならば秘儀とされてきた。

現行では、まず禰宜以下と式年造営庁の技監以下が正宮に拝礼し、新宮の御敷地に移って屋船大神をまつる。その後、禰宜・権禰宜・技監・技師がうち揃って、御形短柱の前に進みよる。そして技監・技師が御形を穿って墨をくわえ、禰宜がこれを検知して終える。

こうして敵かな正殿の造営工事が、一年半の期間、着々と進められてゆくのである。

伊勢神宮・桜山八幡宮 参拝旅行のご案内

◎期 日：平成22年 3 月 7 日(日)～ 3 月 9 日(火)
 ◎募集人員：120名 (定員になり次第締め切ります。) バス 3 台
 ◎参加費：45,000円 交通費・宿泊代・食事代・傷害保険料
伊勢神宮御神楽料・御神酒拝観等一切を含みます。

日次	月(曜)	行 程	宿泊地
1	3 / 7 (日)	8:00～8:30 11:45～12:30 各地より＝寒川神社＝浜松市内(昼食) 15:30～16:30 17:10頃 伊勢神宮外宮(自由参拝)＝鳥羽【宿泊】	鳥 羽 シーサイド ホテル
2	3 / 8 (月)	8:00 8:40～11:30 鳥羽＝伊勢神宮【正式参拝】・おかげ横丁(買物) 12:30～13:15 16:50頃 龜山市内(昼食)＝高山【宿泊】	高 山 グリーン ホテル
3	3 / 9 (火)	8:00 8:10～10:00 高山＝桜山八幡宮【正式参拝】・朝市等市内散策＝ 11:00～12:40 19:40頃 白川郷(散策・昼食)＝寒川神社及び各地へ	

◎お申込み・お問合わせは 寒川神社 0467 (75) 0004へ

御本殿御造営竣工十周年記念事業 御本殿周辺整備事業奉賛者芳名

左記の方々より赤誠溢れるご奉賛を賜りました。
誌上より厚く御礼申し上げます。

【平成二十一年十二月奉賛者】(順不同・敬称略)

- 一〇万円 阿野和隆
- 四万円 クープ・ラ・モード
- 二万円 横澤 實
- 横澤ふぢ子
- 鈴木紀夫
- 藤沢市大庭
- 藤沢市湘南台
- 寒川町一之宮
- 寒川町一之宮
- 兵庫県西宮市



GS 神奈川県第四十五団 BS 寒川第二団

鏡 開 き
新 年 茶 会

一月二十四日(日)、初集
会を行ない、スカウト活動
を始めました。
ボーイスカウトでは、今
年の抱負を皆で語り合った
後、恒例の鏡開きを行ない
甘くてあたたかいお汁粉を
頂きました。
ガールスカウトは新年茶
会、作法を教わるも、解か



らない事が多くてんやわん
やの大騒動となりました。
寒くて冷たい季節でもス
カウト達は元氣満点。今年
も精一杯活躍します。



寒川神社少年館

お稽古始め

◆青少年活動だより
師走の二十七日(日)には、
館生・父兄総出で、「正月
飾り」を作りました。
慣れないながらも、一生
懸命に作ったお飾りは、世
界に一つしかない力作ばか
り、早速玄関に飾り、新年
を迎えました。

また日本吟心流詩吟國舟
会の初吟会にも参加し、大
勢の人の前で、「偶成」を
座の稽古が始まりました。
茶道・剣道・書道・吟道
の初稽古が行われると、正
月ひっそりとしていた少年
館は活気を取り戻し、子供
達の賑やかな声が鳴り響き
渡りました。

声高らかに詠い上げ、大き
な拍手を頂きました。



419

健康手帳

急性低音障害型感音難聴

宗教法人 寒川神社 寒川病院
耳鼻咽喉科医長 大上麻由里

急性低音障害型感音難聴

は、急に生じる感音性の難聴疾患のひとつです。感音性の急性難聴疾患としては、古くから突発性難聴という疾患があり、以前は急性低音障害型感音難聴も突発性難聴として扱われていました。が、聴力障害が低音域のみの症例はそうではない症例に比べ症状の回復が良いため、現在では独立した疾患として考えられるようになりまし。

この疾患は急性あるいは突発性に耳症状（耳閉塞感、耳鳴り、難聴など）が発症し、聴力検査では低音障害型の感音性難聴の像を示し、難聴の原因は不明または不確定でめまいは伴わない疾患と定義されています。また統計的には片側性が多く、一回の発作後比較的短期間

で回復する例が多いと報告されていますが、まれに両側の例や軽いめまい症状のある例もあるようです。発症前には感冒様症状が認められる例もあり、ストレスや疲労がたまっている場合も多いようです。

この疾患は何らかの原因で、内耳にリンパ水腫と呼ばれる水ぶくれ状態が生じて発症すると推測されており、その点は回転性めまいと聴力の低下を繰り返すメニエール病に共通します。

実際に急性低音障害型難聴の症例は、聴力が変動しながら回復する例や何度とも同様の症状を繰り返す例があり、このような例はメニエール病に移行する例があります。

治療は他の急性内耳障害と同様に、ステロイド剤、

循環改善剤、内耳代謝改善剤やビタミン剤などを使用します。回復の悪い例ではメニエール病に効果のある利尿剤が効果を示す場合もあります。自然回復例もあるようですが、自覚症状だけではこの疾患かどうかは判断できず、診断には正確な聴力検査が必要でまたメニエール病に移行しないかどうか経過観察が必要です。軽度でも急な聴力低下を自覚された場合は早急に耳鼻咽喉科を受診してください。

医療講演会のご案内

と き	2月23日(火) 午後2時～3時
と ころ	寒川神社参集殿 ※入場無料（申込み不要）
内 容	「健診の上手な受け方」
講 師	健康管理科医長 内山光昭
お問合せ	電話 0467 (75) 6680 (寒川病院)

歳末助け合い募金寒川町へ寄付

全国的に実施されています「歳末助け合い運動」の助成にと神社、病院、神恵苑、参集殿の四箇所募金箱を設置していただきましたが、去る十二月二十八日、義捐金一九一、〇三四円を寒川町へ寄付致しました。ご協力頂きました皆様方のお心遣いに感謝申し上げます。



寒川神社参与 高橋春吉氏

NHK全国俳句大会にて特選に入選

当神社参与・寒川俳壇会長で少年館の俳句講師をお勤め頂いております高橋春吉氏がこの度NHK主催の平成二十一年度全国俳句大会にて見事特選に入られました。全国より寄せられた四八、六六一句より選ばれての受賞となりました。



「終戦日大海原の沈黙す」

人 事

◆退職

△神社▽

録事 志賀 肇
規則に依り定年退職とする
平成二十二年一月三十一日

◆新採用

△神社▽

録事 中嶋 洋美
願いに依り職を免ずる
平成二十二年一月三十一日
寒川神社主事を命ずる
平成二十二年二月一日
関 良子





大嚏(おおくち)赤子泣かせてしまいいけり
 熱爛(あつらん)や淋しいときはなお熱く
 寒厨(さむぢ)灯りに光る卸金(おとしがね)
 遠くから誰だか分かるほおかむり
 元旦(おとし)や紙に戻りし宝くじ
 お喋りに一間(いっけん)暮れをり女正月
 誰もぬぬ校長室のシクラメン
 空手部(からて)の気合で割るや鏡割
 玻璃(はり)一重間に寒波(さむなみ)の風尖る
 孫に次ぐ電話はかりや松の内
 人日(ひとひ)や何も変らず仕舞(まひ)風呂
 鏡割石(かみわりいし)を割ること割れ目見る
 板(いた)の間に鏡開きの顔(かほ)そろふ
 女正月(おんなしげつ)ねんねころりが遠さがる
 満タン(まんたん)に単車(たんしゃ)の給油(きゅう)買い始め
 しんしんと利鎌(りかま)のような寒の月
 睨めっこ(にらめっこ)笑うと負けよ福笑い
 冬晴(ふゆはら)れや昔の遊び(あそび)竹トング
 女正月(おんなしげつ)男ひとりの夕餉(ゆふく)かな
 猫舌(ねこぢ)をはやされてある女正月
 薄紅(うすべに)の切山椒(きりからし)やほつれ髪
 女正月(おんなしげつ)一人はればれ社寺詣
 北国(きたくに)の老人(らうじん)ばかり雪を掻く
 こころにも餌(え)のあるらし寒雀(さむせう)
 辛せ(からせ)を念じて賀状(がじょう)手書きにて
 夜遊び(よあそび)の猫(ねこ)のでて行く寒の星

露木(つゆぎ)てる子
 飛石(とびいし) 槿花(きんか)
 根岸(ねがし) 君子(くんし)
 皆川(みながわ) 志んこ
 芹沢(せりざわ) 徳光(とくみつ)
 相原(さいはら) 白蔭(しらくい)
 高橋(たかはし)はるよし
 菅沼(すがぬま)つめの
 伊藤(いとう) 公一(こういち)
 金指(かねさし) 月光(げいこう)
 天沼(あまぬま) 子平(しへい)
 菅沼(すがぬま) 保幸(たもゆき)
 岡田(おかた)風呂釜(ふうりく)
 宮入(みやいり) つる
 千葉(ちば) 静香(しずか)
 松本(まつもと)美智子(みちこ)
 倉谷(くらたに) 節子(ふしこ)
 四ツ車(よつぐるま) 梢月(せうげつ)
 山本(やまもと) 朝子(あさこ)
 市本(いちもと) 益子(えきこ)
 浅田(あさた)のぶ子(のぶこ)
 原野(はらの) 楽天(らくてん)
 岩田(いわた)美代子(みよこ)
 竹村(たけむら)真砂美(まなづみ)
 三輪(さんりん) 恭子(きょうこ)
 金子(かねこ) つち



二月 手水舎奉掲

明治天皇御製

千早(ちちはや)ふる神(かみ)のひらきし敷鳥(敷鳥)

道(みち)はさかえむ萬代(まんだい)までに



清らかな川の流(なが)れに青鷺(あおぎ)の魚捉(うま)つと一点見(ひと)つむ
 親(おや)と子の遊び賑(にぎ)わう中央公園(ちゆうおうこうえん)この平和(へい)とこそ続(つ)きてあれな
 遠(とほ)き日に夢(ゆめ)を語りしその人(ひと)を思い出しをり今宵(こんよ)の満月(まんげつ)
 培(つちか)った野党(やとう)時代の敏腕(びんわん)を国民(こくみん)目録(めいよ)の政治(せいざ)に活(か)かせ
 台風(たいふう)は今宵(こんよ)それたらし寝(ね)ながらに聞く細(こ)き落虎(らくこ)笛(ふえ)
 秋(あき)の夜の月(つき)のあかりに虫(むし)の音を独(ひとり)聞きつつ歌(うた)に思いぬ
 交番(かんばん)前に仁王(におう)立ちする新任(しんじん)のおまわりさん(さん)の目差(めさ)し優(やさ)し
 飲(の)むほどに重ね(かさね)た歳月(さいげつ)語(かた)らずとも大きな夫(お)の手(て)小さな吾(われ)が手
 一(ひと)点(てん)を見(み)つめる甥(なまこ)の横顔(よこがほ)に不況(ふきやう)の影(かげ)さす出社(しゅつしゃ)の姿(すがた)
 掛軸(かかけ)の条幅(じょうぷ)の書(か)は若(わか)き日の努力(どりょく)のあと(あと)の思い出(おも)いのあり
 秋(あき)日(ひ)降(ふ)る烟(けむ)りにみかんや柿(かき)熟(じゆ)れてこの山(やま)すそは黄(わ)に染(ぞ)まり行く
 風(かぜ)なきもはらりはらりと散(ち)りゆけり柿(かき)の葉(は)冴(さ)えさえ綾(あや)なせる色(いろ)
 引(ひ)きあげて京(きやう)都(と)住(す)まいの友(とも)よりの久(ひさ)し振(ふ)りある電(でん)話(わ)ありたり
 鉄(てつ)けするほかに能(よ)なきこの我(われ)に不況(ふきやう)長(なが)き鉄(てつ)も削(け)れぬ
 み霊(みたま)あまた松原(まつはら)湖真(こま)盛り(もり)の紅葉(もみぢ)を映(うつ)す湖面(こま)を巡(めぐ)る
 みどり濃(の)い葉(は)にふんわりと山茶花(さんぢあな)のピンク(pink)が咲(さ)ける筋向(すぢむか)いの家(や)
 地(ち)を染(ぞ)むる公孫樹(こうそんじゆ)落葉(らくえつ)の黄(わ)を掬(く)ひ幼(こ)の母(はは)にかけ寄(よ)りてゆ(ゆ)く

浜田(はまた) 寿子(すけこ)
 山口(やまぐち) 幸子(ゆきこ)
 山根(やまね)喜美代(きみよ)
 安藤(あんどう) 慧(けい)
 鈴木(すずき) 助晴(すけはる)
 川島(かわしま)恵美子(けいみこ)
 吉田(よしかた)マツ子(まこ)
 工藤(こうどう) 光子(こうみ)
 稲田(いなだ) 治江(ぢえ)
 三留(さんりゅう)とく子(こ)
 天利(あまのり) 春枝(はるえだ)
 岡元(おかもと) 芳子(よしこ)
 出町(でまち) 安子(やすこ)
 斎藤(さいとう)くにお
 宇田(うだ)川(がわ)時子(ときこ)
 龜山(かめやま) 文子(ふみこ)
 杉本(すぎもと) 照世(ていよ)

表紙写真説明

国旗(こくき)と昭和(しやうわ)天皇(てんわう)御製(ごせい)碑(い)「松上(まつかみ) 雪(ゆき)」昭和(しやうわ)六十(ごじゅう)一年(いちねん)四月(しがつ)建立(けんりつ)。



一陽(いちやう)來復(らいふく)。待(まち)ちに待(まち)つた春(はる)が漸(ゆる)く到來(とらい)。

平成22庚寅年 厄年一覽表

性別	年齢	前厄	本厄	後厄	性別	年齢	前厄	本厄	後厄
男	25歳	昭和62年生	昭和61年生	昭和60年生	女	19歳	平成5年生	平成4年生	平成3年生
	42歳	昭和45年生	昭和44年生	昭和43年生		33歳	昭和54年生	昭和53年生	昭和52年生
	61歳	昭和26年生	昭和25年生	昭和24年生		37歳	昭和50年生	昭和49年生	昭和48年生

節分(せぶん)には、「各家(かみ)々(々)から「鬼(おに)は外(そと)」、「福(ふく)は内(うち)」と大きな声(こゑ)が聞(き)こえて来る(来る)。不景(ふけい)気(き)も鬼(おに)と一緒に退散(たいさん)すると有難(ありがた)い。